

読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰

編集人 片岡 伸子

会員の購読料は
会費の中に含まれる

No. 706

★「読書週間」ポスター完成(2頁)

★日本児童文学者協会「那須正幹電子記念室」紹介(5頁) 定価 60円



京都大学 人文科学研究所 教授

ふじはら かつし
藤原辰史

「読書週間」によせて

「自然を読むこと」と「字を書くこと」

私は、読書という文化がもつと広まり、深まるためには、読書家ではない人たちの生き方にもっと学ぶ必要があると考えています。大学でも、1冊も本を読まない学生が増えていますが、そんな人たちが読書家の優越感から「みんなそれでも大学生なの」と説教するのではなく、自分たちもスマホや競馬やアニメと同じような中毒患者であるという低い目線も必要なのかもしれません。

私は、大学1年生まで、本好きの人たちの気持ちかわかりませんでした。電車に乗っているのに、どうして窓の外で繰り広げられる風景を眺めないでいられるのだろうか。せっかく晴れているのだから、外に出てキャッチボール

でもしたほうが楽しいではないか。父が読書好きで、新聞の一面の下にある「サンヤツ」をはさみで綺麗に切り抜いては、保存して、休日に本屋にいく、という人でしたが、最初はなにが楽しくてそんなことをやっているのかわかりませんでした。

私にとって、高校までの読書はほぼ国語の時間に限られました。まったく点が伸びない受験国語の勉強をしているときに気づいたのですが、私は、初見の文章がほとんど頭に入ってこない性質でした。すぐに別のことを考えてしま

う。「文脈」の意味もわかりません。むしろ、文脈のない図鑑のほうを読んでいて楽しかった。だから、繰り返し無理にでも文章を読むことで、

やつとゆつくり頭に入っている、という感じでした。

逆に、高校時代に私に人生を教えてくれたのは、ソフトテニスというマイナースポーツに命をかけて打ちこんでしまっている仲間たちでした。コート以外では、とてもここ

では申しあげることのできないだらしない高校生たちなのですが、コートに入ると、アドバイスし、責任を取り、相手を観察し、軌道を読み、ラケットを振る。なにより何かに取り憑かれたように練習する人たちがいました。「取り憑かれている」感覚ならば、スポーツ選手、林業家、農家、漁師はだれも、世界からなにかを「読み」、自分の血肉とし、しかも、決断して行動に移しているのです。読書家が本を味わうの

と、林業家が100年後の山を想像して施業するのと、漁師が魚群を追って船を動かし網を張るのとで大きな差異はあるでしょうか。鳥取県の智頭の林業家に話を聞いたとき、もつとも驚いたのは、木を切り出すための林道を設置する作業において、山の地形と水の流れをとらえる、その驚嘆すべき「読む」能力でした。

大学に入って読書が心底楽しいと思うようになったのは、そういう自然の「読み」と本の「読み」を重ねられるようになってからかもしれません。読書の楽しさとは、そういう自然を「読む」人々への目線に敬意なり嫉妬なりを抱いたうえで、初めて湧きあがってくるものだ、最近、一次産業従事者の話に耳を傾けるようになって思うようになりました。読書とは、知識を増やして、自然を読む人の上に立つためにあるのではなく、社会や自然の「かたち」を読み、そこに「道」をつける行為のほんの一部にすぎないからこそ、尊いのではないのでしょうか。

2026・第80回 読書週間 10/27～11/9



静かだけど、冒険中。



静かなワクワク、静かな冒険 心を想像のかなたまで！

「2026 第80回・読書週間」

者に感謝いたします。

のポスターが完成、9月中旬より順次、発送してまいります。現在、当会ホームページ・公式X（旧「Twitter」）にて、ポスター画像を公開しております。

標語・イラスト募集に応募いただいた方、選考委員、デザインを担当するクウなど、すべての関係

者に感謝いたします。ポスターは4万8千枚を製作、全国の小・中・高校、公共図書館、書店などに配布、掲出をお願いいたします。出版社、新聞社、テレビ局などのマスコミ関係機関には、「読書週間」趣旨書と運動普及活動の要請書を同封してお送りします。

今年、今年の標語は、「静かだけど、冒険中。」です。入選者の船倉菜々子さん（小学館）からは、「ページをめくるとき、傍目には静かに見えても、心はふつと遠くへ旅に出ていろんな体験や感情に出会っています。そんな静かな没入感と想像力による内面の動きが同居しているおもしろさを、ことばにしてみました」と、作者のことばをいただきました。

ポスターイラストは、福岡県福岡市の永森稚苗さんの作品。「本を開けば、宇宙にだってどこにだって行ける。そんな読書の無限の冒険を表現しました。本を読んだまま、『こんなところまで来ちゃった』というワクワク感を感じてもらえたら、うれしいです」と語ってくれました。

周囲の音が聞こえなくなるくらい没頭してしまうような物語、神秘的な風景の写真集、自分の新しい一面が発見できるような本、など、「静かな冒険」を楽しんでください。また、ポスターの舞台で

ある宇宙は音が伝わらない世界ですが、心躍る冒険の舞台でもあり、SF、ノンフィクションの名作も多くあります。ポスターとあわせて「宇宙本」特集なども、いかがでしょうか。



イラストレーション／永森稚苗
標語／船倉菜々子
デザイン／間中幸子（クウ）

本年度も、日本雑誌協会の特別なご協力をいただき、多くの出版社の雑誌に告知広告掲載のお願いをしました。また、電通の協力で新聞各紙やテレビ・ラジオの情報番組での紹介を呼びかけます。

読書推進運動協議会ホームページ（<http://www.dokushyo.or.jp>）では、ポスター・マークのデータ、このページにも使っているロゴデータなど画像データのほか、図書館・書店での展示に活用いただけるポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを配布しますので、ぜひ活用ください。図書館・書店、そして学校図書館からのSNS（X）の投稿は、本年も全力でリポストしてまいります。

画像データは印刷用・Web表示用の2種類のカラーモードを用意します。広報紙やチラシなどは印刷用、ホームページやデジタルサイネージなどはWeb用を、それぞれお選びください。

「読書週間」「こどもの読書週間」を応援してください！



読書推進運動協議会は クラウドファンディング を実施します



公益社団法人 読書推進運動協議会は、2024年度に二度のクラウドファンディングを実施しました。

最初に春の第66回「こどもの読書週間」にあわせて、4月20日～5月24日の期間クラウドファンディングサイトを立ち上げ、このときは30万2000円の寄付をいただきました。

次に秋の第78回「読書週間」のタイミミング、10月25日～11月22日に実施し、寄付額は8万3000円でした。

ファンディングサイトのページではそれぞれ、「こどもの読書週間」「読書週間」の長い歴史とその意義についてあらためて書いたうえで、現在、「活字離れ」「読書離れ」が、ますます進行し深刻な状況になっていること、ふれ、だからこそ「こどもの読書週間」「読書週間」を継続することが重要であるという、読書推進運動協議会の考え方を展開しました。

いっぽう公益社団法人である読書推進運動協議会の財政状況はきびしいもので、事業の運営費や制作費は諸物価の高騰によるコスト増加に直面し、また、長期化するいわゆる出版不況により、会員社の減少にも歯止めがかけられない状

況が続いています。

本年6月22日の定時総会で報告した2025年度決算では、単年ベースの収支においては、791万4265円の赤字であり、正味財産は1291万4265円の減となりました。

2026年度は「読書週間」が80回を数えます。今年も全国の公共図書館、小・中・高校、書店などに、ポスターを配布いたします。2025年度実績では、ポスター5万1500枚を制作、配布。ポスターの印刷には約63万円、デリバリーに50万円を超えるコストがかかっています。春の「こどもの読書週間」についても同様です。

全国に読書の大切さ、そして楽しさと呼びかけるこのポスターの配布事業を継続するためにも、この秋、3回目のクラウドファンディングにチャレンジすることを企画しています。これまでに増して、「読書週間」「こどもの読書週間」の意義と重要性を訴求するとともに、魅力的な返礼品を予定しております。

今回の募集期間は、「読書週間」が始まる10月27日(火)から1か月程度を予定。関係各位のご理解とご協力をこの紙面を借りてお願い申し上げます。

■全国図書館大会 石川県で開催

「図書館が希望をつなぐ」 災害対応や最新研究を報告

「第112回 全国図書館大会 石川大会」(主催)公益社団法人 日本図書館協会／石川県／石川県図書館協会ほか)が、11月19日(木)・20日(金)に開催される。

テーマは「図書館が希望をつなぐ」学びと再生の地・石川から。すべてのプログラムが対面開催で行われる。

19日の全体会は、石川県立音楽堂で開かれる。記念講演は、安部龍太郎さん(作家)の「前田家三代を描いて」。前田家を描いた「銀嶺のかた」の創作エピソードなどが紹介される。特別報告「災害からの復興と備えー被災から一歩ふみ出す手助けとなる、図書館経験と知恵を共有する」では、能登半島地震・豪雨における被災状況と支援の実態、災害資料の可視化・共有に関する最新研究、自然

災害発生時の情報収集・発信や被災館支援の取り組み、災害に強い図書館建築の考え方など、図書館が災害に向きあうための総合的な視点の共有を目指す。

分科会は、石川県文教会館と金沢市文化ホールで10テーマを開催。「公共図書館」「大学・短大・高専図書館」「学校図書館」「児童サービス」「みんなで考える図書館の自由」「インクルーシブな図書館」「障害者サービス」「非正規雇用職員」「情報資源の発掘と図書館連携」「デジタルアーカイブと図書館」が予定されている。

そのほか、希望者を対象に、懇親交流会(19日)、受け入れ可能な石川県内図書館の見学(21日)も用意されている。

参加には事前申し込み(10月9日(金)締切)と参加費(資料代など)が必要。宿泊プランも用意されている。プログラムの詳細、参加申込方法は、全国図書館大会 石川大会サイトまで。



全国図書館大会
石川大会
QRコード



全国図書館大会石川大会
ちらし

■公益社団法人 読書推進運動協議会 構成団体の取組

大規模自然災害に対応する 情報、支援を提供

7月28日に発生した熊本地震および、8月13日に発生した千葉県の大規模自然災害は、大きな自然災害が続いています。被災地域の図書館、書店にむけた、読書推進運動協議会構成団体の取組をご紹介します(8月28日現在)。

●公益社団法人 全国学校図書館協議会

・全国学校図書館協議会によせられた寄附金とともに、地震や豪雨など2018年4月以降に発生した災害によって被災した日本国内の学校図書館、および、2018年3月以前に発生した災害により現在も支援を必要とする国内の学校図書館に対して、学校が希望する図書館用品、図書などを寄贈する。支援希望校の集中募集期間は9月1日から12月25日まで。

全国学校図書館協議会 <https://www.jsla.or.jp/>

●一般社団法人 日本出版取次協会

・サイトにて、熊本県内の書店被災状況を随時紹介。

日本出版取次協会 <http://www.tonkyo.jp/>

●日本書店商業組合連合会

・熊本県書店商業組合が、被災した加盟店の復旧のための義援金を募集。

日本書店商業組合連合会 <https://www.n-shoten.jp/>

日本図書館協会 <https://www.jla.or.jp/>

■「絵本ワールド」開催予定

9月より、全国9会場での 開催が決定！

読書推進運動協議会が事務局を受託している「子どもの読書推進会議」が後援する「絵本ワールド事業」は、2026年度9月以降に以下の開催が予定されている。

9月22日(水)・23日(木)

「絵本ワールドinまちだ」

会場 [町田パリオ](#)

(東京都町田市)

「絵本ワールドinわかやま」

会場 [有田川町地域交流センター](#)

(和歌山県有田川町)

10月3日(土)・4日(日)

「絵本ワールドinひよつぐ」

会場 [尼崎市中心小企業センター](#)

(兵庫県尼崎市)

11月7日(土)・8日(日)

「絵本ワールドinとかち」

会場 [音更町生涯学習センター](#)

(北海道音更町)

「絵本ワールドin東金」

会場 [城西国際大学東金校舎](#)

(千葉県東金市)

11月22日(日)

「絵本ワールドinすがも」

会場 [十文字中学・高等学校](#)

(東京都豊島区)

12月5日(土)・6日(日)

「絵本ワールドin紀尾井町」

会場 [城西国際大学紀尾井町校舎](#)

(東京都千代田区)

12月19日(土)・20日(日)

「絵本ワールドinおきなわ」

会場 [おきなわ工芸の杜](#)

(沖縄県豊見城市)

2027年2月20日(土)・21日(日)

「絵本ワールドinしずおか」

会場 [下田市民文化会館](#)、伊豆市立修善寺図書館ほか

(静岡県下田市、伊豆市)

※以上現時点で内定しているもの。カッコ内は会場

このほかにも現在調整中の案件もあり、2026年度は例年にもまして活発な開催状況となつていく。



2026年度「絵本ワールドinしずおか」より

■「教科書の日」15周年

記念ロゴマーク 募集！

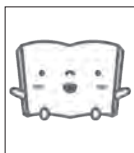
一般社団法人 教科書協会は、「教科書の日」15周年記念企画として、記念ロゴマークを募集する。教科書協会公式キャラクター「しるしる」をかならず入れ(キャラクターの表情変更は可)、「教科書の日」15周年であることがわかるデザインの作品をPDFデータで募集。制作にあたり、手書き、ソフト使用は問わないが、画像生成AIの使用は不可。

最優秀賞はロゴマークとして採用され、3万円の図書カードと副賞(オリジナルクリアファイル)が贈られる。また、優秀賞2名に5000円の図書カードと副賞、佳作3名に3000円の図書カードと副賞が贈られる。

締め切りは10月15日(木)。教科書協会ホームページに、くわしい応募要項が掲載されている。

●教科書協会

<https://www.textbook.or.jp/>



教科書協会公式キャラクター「しるしる」

■日本児童文学者協会「那須正幹電子記念室」

那須正幹さんの作品と想いを
次世代の子どもたちにも伝えたい一般社団法人日本児童文学者協会 前理事長
那須正幹著作権管理委員会 委員

藤田のぼる

当協会のホームページを開いていただくと、会の歴史や活動、出版物の紹介などが並んでいて、これはどの文化団体でもほぼ似たパターンだと思えますが、当協会独自のコンテンツとして、「那須正幹電子記念室」があります。

那須さんは、言わずと知れた「ズッコケ三人組」シリーズが代表作の作家ですが、当協会の会長・



那須さんのやさしい笑顔が迎えてくれる、「那須正幹電子記念室」トップページ

理事長を2007年度から3期6年間務めました。任期の途中で、文科省の法人改革を受けての定款変更があり、代表者が「会長」から「理事長」に代わったので、那須さんは「最後の会長」でもあったわけです。そして、首都圏在住者以外の初めての会長（山口県防府市在住）で、理事になること自体、那須さんにとっては初めてのことでした。

遠方でもあり、理事会には年2回程度おいでいただければと思っていたのですが、ほぼ毎回出席でした。そして、理事会に出てみて、那須さんがあらためて感じられたのは、協会の財政状況の厳しさだったと思います。じつは、那須さんが退任されて何年かあと、信託銀行から連絡があり、那須さんが遺言書の作成に当たり、「ご自身の著作権を児童文学者協会に遺贈する意向だ」というのです。ありがたいことではあるが、それはまだまだ先のことだと思っていました。が、那須さんは2021年7月

に79歳で亡くなりました。そして、遺言どおり、全著作権が協会に遺贈されたわけです。

これを受け、協会では「那須正幹著作権管理委員会」を発足させました。理事長のぼくを責任者に、「ズッコケ三人組の大研究」の編者である宮川健郎さん、「お江戸の百太郎」シリーズなどの担当編集者でもあった津久井恵さんに加えて、（著作権管理は長いスパンの仕事になりますから）理事のなかでも若手の押川理佐さん、はらまさかずさん（事務局長）に入ってもらいました。宮川さんは宮川ひろさんの、押川さんは末吉曉子さんの著作権継承者でもあり、その経験を生かして、という思惑もありました。

「経験」という意味では、児童文学者協会は、以前には「新美南吉著作権管理委員会」の事務を担当していました。南吉は若くして亡くなり、先輩である異郷歌が著作権管理をしていたわけですが、その死後20年間は、関係者の委託を

受けて、協会がそれを引き受け、ぼくは事務局員時代、その実務を担当していました。

さて、那須さんの著作権遺贈というご意思を最大限生かすためにも、一般的な著作権管理というだけではなく、那須さんのエッセイなども含めた作品の調査・リスト作成、そしてなにより、那須作品についてこれからも多くのファン、読者と共に、那須さんの世界に親しんでいける方策を考えなければと思いました。そうしたなかで、協会のホームページに「電子記念室」というコーナーを設けることを思いついたわけです。もちろん協会にとつても初めてのことでした。

内容としては、那須さんの略歴や作品の紹介はもちろん、実際の文学館、記念館などのように、「企画展示」ということを考え、開設以来、「ズッコケ三人組」のはじまり、「お江戸の百太郎」を歩く「ズッコケ三人組、謎?」の原稿「那須正幹と映画」「新作」絵本が出版されました」の展示をアップしました。最後の「新作絵本」ですが、これも管理委員会の発足に当たって、もし那須さんに本になつていない原稿があれば、遺作として本にしよう、と考えたので

受けて、協会がそれを引き受け、ぼくは事務局員時代、その実務を担当していました。



那須さんの遺稿より出版された『やくそく』

す。とはいえ、那須さんのことですから、多分ないだろうと思っていれば、あったんですね。その原稿に、武田美穂さんに絵をお願いして出版されたのが、『やくそく』ぼくらはぜったい戦争しない（ポプラ社）です。それから、これは管理委員会の直接の仕事ではありませんが、右記の宮川、津久井そして藤田が編集委員として、那須さんの業績をまとめた「遊びは勉強友だちは先生」「ズッコケ三人組」の作家・那須正幹大研究（同）も出版しました。

著作権管理委員会自体、那須さんの没後3年という前提で、今は組織的にはややあまい位置づけで、記念室の内容の更新も間遠になつてしまっているのですが、そのあたり、きちんと整理をして、那須正幹の文学の魅力や、広島で3歳で被爆した那須さんの平和への思いを、これからも伝え続けていければと念じています。

優良読書グループの歩み (9)

2025年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

図書ボランティアの会

代表者 中西 郁子

福島県福島市

〈推薦〉
福島県立図書館

図書ボランティアの会は、福島市立図書館が設立準備中の1983年3月、なにかお手伝いをしたいという有志13名で、図書整理の活動からスタートしました。

2年後に図書館が開館してから読み聞かせの活動を始め、翌年には点字図書館で朗読の研修を受けた人たちが参加して、対面朗読の活動も始まりました。さらにその翌年、活動のスタート時からのお願であった点字つきの布絵本の制作が始まり、手でさわる絵本本もできました。図書整理は修理班と名称と活動を変え、以来、4班の活動で現在にいたっています。会では役員会を定期的に開催し



課題と困難を乗り越えて、これからも4班で活動中

て各班の活動の情報交換をし、会活動を決めています。ほかの班の活動がおたがいの刺激になるとともに、それぞれの班活動のなかで知り得た情報交換と協力できたものの視野が広がり、活動の活性化につながっていると思います。

会のスタート時は、図書館にボランティアがいることがまれな時代で、活動の指導者も参考にする団体もないことでの苦労があり、研修を受けることや学習会、対外

交流など、学びを大事にしてきました。

毎週毎月の各班の定例活動に加えて、それぞれの活動の展示会や発表会、毎年の読書週間の行事、図書館見学など、全員が協力しあう機会も多く、それが喜びや励みになっていました。

しかし、東日本大震災ですべてが一変しました。福島は原発事故で他県から遮断されたようになり、一切の交流が途絶えて他県への避難者も多く、図書館自体も大きな被害を受けました。外出自粛が呼びかけられるなか、それでもなんとか本を集めて有志による避難所での読み聞かせなどができ、各班の活動も徐々に回復していききました。

ようやく活動に光が見え始めたころ、今度はコロナによる活動制限、集会制限で、会員も利用者も厳しい年月を過ごしました。

原発事故以来、会員も利用者も減少するなかで、会員の高齢化学校の閉校や統合で活動場所の減少と、課題は多くあります。しかし、課題に取り組みつつ活動を向上させてきたことを思い、これからも読書の力を信じてみんなで努力していければと願っています。

おはなし会 トムテ

代表者 高橋 文子

島根県邑智郡邑南町

〈推薦〉
島根県図書館協会
読書推進運動協議会部会

1992年9月から、月1回のおはなし会を楽しく続けてきました。

子どもたちのためにというより、私たちが絵本やおはなし会が好きだから、続けてこられたのだと思います。自分たちの子育てもしながら無理はしないで、できることを続けてきました。

絵本の読み聞かせをすることが多いのですが、パネルシアターや手遊び、わらべ歌、ストーリーテリング、紙芝居なども行うことがあります。メンバーが全員そろったときは、手袋人形を使った人形劇もやってきました。たとえば、12月なら『ぐりとぐらのおきやくさま』を上演するなど、季節感も盛りこんでいます。また、半年に一度くらいの頻度で、おはなし会の後に、枝などの材料をメンバーが持ちより、グルーガンを使ってリースを作るなど「手づくりを楽



大人も子どもも、そしてトムテのメンバーもおはなし会

しむ時間」を設けていました。ときにはお子さんよりもお母さんの方が夢中になれることもありました。

私たちもおのおのの長所を活かし、アイディアを出しあってバラエティー豊かにやってきました。「おはなし会だより」も月1回発行し、「夜眠る前にテレビを消して、10分だけでも親子で絵本や昔話を楽しむ時間を！」と呼びかけることもよく書いていました。しかし、令和となりコロナ禍も経て、スマホひとつでなんでも知れてなんでもできる時代になると、「今日もおはなし会の参加者がゼロだった」という日が増えてきました。



静かだけど、冒険中。

10月27日～11月9日

2026 第80回 読書週間

語りと紙芝居の会

代表者 山本 典判

高知県高知市

〈推薦〉

高知県図書館協会
読書推進運動部会

私たちメンバーは全員、子育ては終わり、孫を持つ世代となっており、正直、始めたころの熱量では、活動できていませんが、経験は積み重ねてきましたので、以前より、お子さんの心や保護者さんの気持ちによりそえるようになってきたと思います。

現代は核家族が多く、スマホがあればひとりで楽しめる時代かもしれない。しかし、だからこそ、先生や家族以外のひととのふれあいの場となるおはなし会に参加してみるのが、子どもたちにとっておもしろい経験になるのではないかと、思います。

私たちにも本文を書くことは、33年間のあゆみをじっくり振り返り、ここで仕切り直して新しいおはなし会を模索していく、よい機会となりました。ありがとうございます。

当会の設立は、2001年11月。土佐民話収集の第一人者・市原麟一郎先生を会長とし「紙芝居研究会」として発足。2002年11月に現在の「語りと紙芝居の会」となりました。毎月第2土曜日を定例会とし、市原先生の土佐の民話を中心に、紙芝居の演じ方（聞き手に楽しく聞いてもらえるよう、読み方・発声・速さ・紙芝居棒・拍子木の使い方など）、作り方を学びながら、さまざまな物語（落語・語り・創作）にもふれ、県内外に広める活動を行っています。

発表の場は、高齢者施設・老人会・生涯大学・児童クラブ・行事などで、数人で出かけます。認知度も上がり、依頼も増えていきます。民話が収集された高知県内地域で、写真撮影をし、その写真を用いて発表時に解説する会員もいます。

2023年9月に市原先生が逝去され、現在は山本会長を中心として活動を継続中です。新たな参加者も増え、高知市内のみならず、県下より参加があります。活動に興味のある方はいつでも自由に参加できます。発表者に感想を述べ、上演の技術の向上に研鑽を積んでいます。和気あいあいとした楽しい会です。

2025年4月現在、登録者数は21名、1回の参加者は10～15人です。運営は、年会参加者による必要時の集金制で、年度ごとに会計報告と監査を行っています。運営・発表会時には役割分担を行い、参加者の負担にならないように助けあっている活動を続けています。「報・連・相」もかならず。目的・内容・場所・発表場などの年間計画、次回定例会の司会・発表者・資料提供者などを決めていきます。

高知県立文学館には、市原先生の作品が多数所蔵されていることから、設立当初から文学館ホールをお借りしています。また、文学館職員さんを相談役に、活動を見守っていただいています。（2006年度から、会員の一部がカルチャーサポーターに登録、ボランティア活動にも参加）。

毎年3月に、無料の発表会を開催、研鑽の成果を披露します。このとき、県内外のほかのグループとの交流もあります。市原先生より依頼された演出家の西森良子先生指導のもと、朗読劇（市原先生から許可を得た作品を脚本化したもの）も上演に向け稽古中です。

今後は、土佐の昔話を広く知って、身近に感じてもらえるよう、次世代に伝えることを目標とし、昔話の収集もできるよう、活動継続をと、話しあっています。



土佐の民話を中心にさまざまな物語を紙芝居で紹介

■「秋の読者還元祭」

スマホ決済の図書カードが当たる
キャンペーン開催!

日本書店商業組合連合会(日書連)は、「読書週間」期間を含む10月26日(月)から11月16日(月)までの22日間、「秋の読者還元祭2026」を全国のキャンペーン参加書店で開催する。

この「読者還元祭」は、「読書週間」「本の日」にあわせて実施される。期間中、参加書店にて書籍・雑誌を購入した読者に、応募方法を説明する「キャンペーン

■「いっしょにえほん写真コンテスト」

子どもと過ごす絵本のひとときの
写真を募集!

NPOブックスタートは「いっしょにえほん写真コンテスト2026」を開催する。

【いっしょにえほん写真コンテスト2026】

◆募集期間 10月19日(月)～11月16日(月)
◆選者 金柿幸幸さん(絵本ナビ代表)、はらかずあきさん(週末フォトグラファー)、間部香代さん(作家)、NPOブックスタート

しおり」が配布される。賞品は総額300万円(1800本)。抽選で200名に図書カードネットギフト50000円分、200名に30000円分、1400名に10000円分が当たる。当選者には12月ごろに直接、図書カードネットギフトメールが送信される。

「図書カードネットギフト」は、スマートフォンで使える図書カード

◆大賞賞品 イラストレーター山口みれいさんによる大賞作品のオリジナルイラストと、受賞写真をレイアウトしたオリジナル図書カード(50000円分)

◆募集内容 赤ちゃんや子どもとの絵本のひとときやその思い出の写真、および写真にそえるひとことやエピソード(100字以内)

◆応募方法 NPOブックスタートのInstagramをフォローし、

ドで、すべての図書カード取扱店(全国で約6400店)で使用できる。

キャンペーン参加書店には、ポスターも掲出されるので、身近な書店で見かけたらぜひ、「読書還元祭」にご参加を。

キャンペーン参加書店など、「秋の読者還元祭」の詳細は10月、日書連ホームページに掲載予定。

●日書連ホームページ

https://
www.n-slo
ten.jp/
日書連
ホームページ
QRコード



2025年の大賞作品「つながる声」
(愛知県/yumiさん)

「#いっしょにえほん写真コンテスト2026」とNPOブックスタートのアカウント名 @bookstart_japan を入れて投稿

事務局報告(8月)

- ☆3日 2026年度役員変更登記すみの履歴事項全部証明書受領
- ☆5日 2027年度の理事会・定期総会ほか会議スケジュール策定
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」705号入稿
- ☆6日 2026年度役員変更届を内閣府「公益法人INFO」に提出
- ☆7日 2026年度野間読書推進賞第一次選考事業委員会資料を送付
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」705号入稿
- ☆10日 14日 事務局夏季休業
- ☆20日 機関紙「読書推進運動」705号出来
- ☆21日 2026年度野間読書推進賞第一次選考事業委員会
- ☆21日 2026年度野間読書推進賞最終選考資料を送考委員に送付
- ☆21日 機関紙「読書推進運動」705号入稿
- ☆28日 2026年度クラウドファンディングについてCAMPFIRE社と打ちあわせ
- ・28日 伊藤忠記念財団と子ども文庫助成事業などについて打ちあわせ



読書推進運動
協議会
X (旧 Twitter)

●編集部&事務局の
ひとこと

●万城目字さんの『八月の御所グラウンド』文春文庫を書店で見かけ、「解説・田中希実」の文字に惹かれてパラパラと読み始めてすぐ、「あ、これはじっくり読みたいといけな文章だ」と気づき、購入しました。実は、『八月の』は単行本ですでに手元にあり、狭い我が家のあふれる書棚の現状を考えると、両方購入は避けたいところですが、田中選手の文章の静かな力強さは、そんな事情など吹き飛ばしてしまいました。

●日本を代表する陸上・中長距離選手である田中選手の走りに、感動した方は多いことと思います。万城目さん自身も、高校3年生の田中選手が走る姿を現地で見て強い印象を受け、『八月の』に収録されている『十二月の都大路(上)下(下)』のモチーフのひとつとしています。

●屈指の読書家でもある田中選手は、インタビュエーでの真摯な受け答えのことは豊かさも心に残る選手です。この解説では、「言葉も肉体も、表現という点において明らかな限界があるのに、私たちに与えられた表現方法はこれしかないという矛盾を抱えている。私たちアスリートは、肉体をもつて同じようなことをしている」と語っています。研ぎ澄まされた感覚で自分の身体の動きを読み解き、その結果、望む走りができそうになくても「なぜ走るのか」をこゝとで突きつめる。そんな自身の陸上人生から、万城目作品の「不思議さ」の源へと迫っていく。解説を読むとまた一冊丸ごと読み返したくなる、無限ループにはまりました。(伸)